



平成29年7月27日
第六管区海上保安本部

夏季における海の安全推進活動の実施について
～ 楽しいマリレジャー、楽しい思い出のまま家路につけるように ～

第六管区海上保安本部では、マリレジャー愛好者や小型船舶（主にプレジャーボート）の船長等を対象とした海の安全推進活動を、平成29年8月1日（火）～31日（木）までの1か月間実施します。

《海難発生状況と海の安全推進活動の取組み》

過去5年（平成24～28年）の夏季（7～8月）における第六管区管内で発生した海難は、船舶事故が446隻（うちプレジャーボート266隻）、人身事故が444人（うちマリレジャー中186人）でした。
（詳細別紙参照）

第六管区海上保安本部が管轄する瀬戸内海及び宇和海では、例年7～8月にマリレジャーに伴う海難が多く発生しているため、マリレジャーを安全に楽しんでいただけるよう「海の事故ゼロキャンペーン」（7/16～7/31）に引き続き、「夏季における海の安全推進活動」を展開し、事故防止を呼びかけます。

《重点推進事項》

- ・プレジャーボート船長に対する船舶事故の未然防止活動（発航前点検、見張りの励行など）
- ・バナナボート等曳航遊具を曳航中の船長とその遊戯者への安全指導
- ・「自己救命策3つの基本プラスワン」の周知・啓発活動の実施
- ・ライフジャケットの正しい着用方法の徹底

自己救命策3つの基本プラスワンとは、海上保安庁が展開している「ライフジャケットの常時着用」「携帯電話等連絡手段の確保」「118番の活用」に、第六管区では「帰港時間を家族等に伝える」ことを加え、帰りが遅い、連絡が着かない船長の捜索救助の早期発動に繋げることができることとして、啓発しているものです。

<海難防止川柳>

安全を 積み上げ防ぐ 海の事故 倉敷市ろくかん弐号さん

過去5年間の海難発生状況（平成24～28年）

1. 船舶事故

船舶事故は1913隻（うちプレジャーボート891隻（47%））発生し、そのうち夏季（7～8月）には446隻（全船舶事故隻数の約1/4、うちプレジャーボート266隻（60%））発生しています。

		H24		H25		H26		H27		H28		合計
年合計		401隻		392隻		352隻		381隻		387隻		1913隻
うち小型船舶		283隻		278隻		242隻		268隻		261隻		1332隻
		7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月	
月合計		48隻	56隻	41隻	55隻	39隻	50隻	29隻	43隻	51隻	34隻	446隻
うち小型船舶		44隻	45隻	30隻	43隻	31隻	34隻	20隻	40隻	35隻	24隻	346隻
内訳	プレジャー	33隻	40隻	20隻	38隻	22隻	24隻	13隻	31隻	23隻	22隻	266隻
	漁船	9隻	4隻	8隻	5隻	7隻	9隻	7隻	9隻	12隻	2隻	72隻
	遊漁船	2隻	1隻	2隻	0隻	2隻	1隻	0隻	0隻	0隻	0隻	8隻

夏季（7～8月）におけるプレジャーボート事故の内訳
（括弧内は平成28年同期の事故隻数、人数）

事故隻数：266隻（45隻）

- ・見張り不十分や操船不適切等による**衝突：74隻（11隻）**
- ・メンテナンス不足に起因する**機関故障：58隻（8隻）**
- ・燃料欠乏やバッテリー過放電等で航行不能となる**運航阻害：40隻（10隻）**
- ・見張り不十分や水路調査不十分等に起因する**乗揚げ：34隻（9隻）**
- ・推進器障害等その他：**60隻（7隻）**

水上オートバイの事故隻数【内数】：266隻中28隻（5隻）

- ・**衝突：13隻（4隻）**
- ・**乗揚げ：1隻（1隻）**
- ・機関故障等その他：**14隻（0隻）**

船舶事故による死者数：3人（0人）

- ・転覆して**海中転落**による溺水：**1人** 救命胴衣未着用
- ・衝突して**負傷**、救急搬送されるも死亡：**2人** とともに水上オートバイ

2. 人身事故

人身事故は1655人(うちマリレジャー中は426人(26%))発生し、そのうち夏季(7~8月)には444人(全人身事故者数の約1/4、うちマリレジャー中は186人(42%))発生しています。

		H24		H25		H26		H27		H28		合計
年合計		337人		378人		309人		286人		345人		1655人
マリレジャー中		99人		94人		85人		74人		74人		426人
		7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月	
月合計		41人	66人	57人	52人	35人	34人	32人	38人	42人	47人	444人
マリレジャー中		17人	40人	24人	20人	14人	15人	7人	13人	12人	24人	186人
内訳	遊泳中	9人	25人	8人	9人	4人	7人	5人	5人	5人	12人	89人
	釣り中	1人	5人	3人	0人	0人	2人	1人	1人	2人	2人	17人
	曳航遊具	0人	2人	3人	3人	2人	1人	0人	2人	2人	0人	15人
	磯遊び中	2人	0人	3人	2人	2人	0人	0人	1人	1人	1人	12人
	ウエイボード	1人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	1人	0人	0人	7人
	PB乗船中	4人	7人	5人	5人	3人	3人	1人	3人	2人	6人	39人
	その他	0人	0人	1人	0人	3人	0人	0人	0人	0人	3人	7人

PB:プレジャーボート

夏季(7~8月)におけるマリレジャーに伴う事故者の内訳
(括弧内は平成28年同期の事故者数)

事故者数186人(36人)のうち死亡、行方不明者数46人(9人)

【死亡・行方不明者の内訳】

- ・**遊泳中: 26人(3人)**
- ・**岸壁等からの釣り中: 10人(2人)**
- ・**プレジャーボート船上での釣り中: 4人(0人)**
- ・**スキューバダイビング中: 2人(2人)**
- ・**水上オートバイからの落水: 1人(0人)**
- ・**磯遊び中: 1人(1人)**
- ・**バナナボート等曳航遊具からの落水: 1人(0人)**
- ・**スタンドアップパドルボートからの落水: 1人(1人)**

死亡事故事例

- ・水上オートバイ後部座席から落水し、停泊中の船舶にぶつかり全身を強打
- ・約2m浮遊した曳航遊具から落水し、腹部を強打

曳航遊具は、海外からの輸入品をインターネット経由で販売することが多く、取扱説明書が英語のため、注意事項(スピードを出し過ぎない等)を理解しないまま使用して、負傷することが多い。

平成28年夏季における海の安全推進活動期間中の事故事例



乗揚げたヨット

【事故発生日】平成28年8月10日

【事故船舶】ヨット

【事故概要】乗揚げ

船長1人が乗船して午前5時に出港したが、航行中見張りをせずにスマホで朝日の写真撮影に夢中になり浅瀬に乗揚げたもの。

(負傷者なし、浸水等なし)



海中転落した岩場

【事故発生日】平成28年8月18日

【事故者】岡山県在住 男79歳

【事故概要】海中転落

瀬渡船で沖合岩場に移動し1人で釣り中、海中転落したもの。瀬戸大橋上で作業中の作業員が転落するのを目撃し通報。

8/23発見揚収(溺死) 救命胴衣未着用



事故現場(画像は干潮時)

【事故発生日】平成28年8月22日

【事故者】岡山県在住 A:男20歳

B:男22歳(二重事故)

C:男23歳(二重事故)

【事故概要】溺水

会社の同僚等7名が渡船で離島に渡り、事故者3名は岩場付近で魚を突いていたところ、Aが潮に流されたため、B及びCが救助しようとしたが潮の流れが速く同様に流され、B及びCは渡船により救助されたが、Aは行方不明となったもの。

8/25発見揚収(溺死)

3名とも救命胴衣未着用